

# 日本鳥学会ニュース

No 6

1979年3月20日

事務所：(160) 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館分館内  
電話 = (03) 364-2311 振替 = 東京1-6599  
原稿宛先：(113) 東京都文京区弥生1-1-1  
東京大学農学部森林動物学教室 樋口広芳

昭和54年度大会 昭和54年度の日本鳥学会大会は、東京・上野動物園内の会館(新築)で、7月15日(日)に行います。詳細は追ってお知らせしますが、講演申し込み(1講演質疑とも15分以内)は受けつけます。講演要旨を400字前後にまとめて、下記までお申し込み下さい。

113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部森林動物学教室内

樋口広芳

新幹事決まる 評議員選挙に先だち、評議員会および幹事会を開いて、新幹事を決めました。

庶務幹事：唐沢孝一、大塚 豊、田中康久

会計幹事：川内 博、宗近 功

編集幹事：森岡弘之、樋口広芳、竹下信雄

長年編集長を務められた阿部学氏は、勤務先の林業試験場の筑波移転などで多忙を極め、しばらく幹事・評議員を離れることになりました。また図書整理をして下さった庶務幹事の石原由雄氏も辞任されました。庶務幹事には新たに両国高校教諭の唐沢孝一氏を迎え、庶務幹事だった森岡弘之氏には編集長をお願いすることになりました。

編集幹事より 「鳥」の原稿を募集します。今年も「鳥」は1号、2号、4号の3冊を出版の予定で、第1号の原稿はすでに編集中で6月上旬に刊行を予定しています。

会計幹事からお願い 今年度分の会費未納の方は、同封の振替用紙で至急お納めくださいますようお願いいたします。なお送金の場合、その内訳を必ず明記して下さい。なんのためのお金か分からずに困ることがよくあります。会費の場合は「〇〇年度会費」と記して下さい。なお、振替で御送金の場合、特に本学会発行の領収書が必要な方はその旨、振替用紙に書いて下さい。特にそのご希望が書いてない場合、会計の手間をはぶくために領収書の発行はいたしません。

会費(1年分) 3,000円(入会金2,000円)

黒田基金の設定 昨年4月に亡くなられた本学会名誉会頭黒田長礼氏のご遺族から、本学会に金50万円の御寄付がありました。幹事会でその用途について検討した結果、故内田清之助名誉会頭の御寄付を基にした内田基金にならって、本学会の創立者を永遠に記念する「黒田基金」を設けることにしました。

これにより、本学会の基金は、現在つぎのとおりです。

内田基金 60万円(他に利子若干)

黒田基金 50万円

老田・斎藤基金 15万円(他に利子若干)

井上元則氏(北海道)は昨年7月、内田基金に、と本学会に10万円を御寄付下さいました。したがって、内田基金は元の50万円にこの10万円を加えたものとなっています。これらの基

金は、すべて特別会計の一部として定期預金の形で運用しています。今後はさらに基金を充実させ、将来はその利子で奨学金を支給するなどの構想を考えています。

最近1年間の例会報告 ◇78年3月11日「鳥の社会について」中村登流 ◇同4月15日「脊椎動物の進化と鳥類の起源」浦本昌紀 ◇同9月30日「鳥のあたり」中村司・吉田正 ◇同11月25日「メジロの社会とその進化」橘川次郎(日本野鳥の会と共催) ◇同12月16日「東南アジアのヤケイ類について」西田隆雄 ◇79年2月24日「フクロウの捕食食物とその量」阿部学。以上いずれも会場は、東京文京区・東京大学農学部。

鳥学会の近畿地区懇談会 鳥学会の例会が活発に開かれるようになったことは、よろこばしいことです。しかし、東京からはなれた所に住む者たちにとっては、速くて時間的にも経済的にも出かけにくいというのが実情ではないでしょうか。そこで、近畿地方に在住する鳥学会員が中心になって、互いに研究の成果を発表し合ったり、親睦を深める場として、1年前に「日本鳥学会近畿地区懇談会」が発足しました。

この会は小林桂助・伏原春男・坂根干・中田千佳夫・山岸哲(敬称略)の5氏が世話人となって運営され、その規約は以下の通りになっています。

#### 〈日本鳥学会・近畿地区懇談会規約〉

1. 名称：この会は日本鳥学会近畿地区懇談会と称す。
2. 目的：会員が鳥類研究の成果を発表し合う場を提供するとともに、あわせて会員の親睦をはかることを目的とする。
3. 事業：この会は目的達成のため、次の事業を行う。
  - 1) 例会の開催。2) 総会の開催。
4. 会員：会員の資格は会費納入によって発生し、会費切れによって消滅する。
5. 世話人：この会を運営するために世話人若干名をおく。
  - 1) 世話人は総会において会員のうちから互選する。2) 世話人は世話人会を構成し、この会の運営企画を評議する。3) 世話人の任期は2年とする。4) 世話人会における決定事項は適当な方法で会員に伝達する。
6. 会の運営：総会は年1回、例会は原則として年3回開催する。
7. 会計：1) 会費は年500円とするが、別途例会の都度参加費を300円徴収する。2) 会計年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終る。
8. 事務局：この会の事務局は当分の間、下記におく。

〒558 大阪市住吉区杉本町459 大阪市立大学理学部生物学教室動物社会学研究室 ☎(06)692-1231(内3253)

9. 附則：この規約は昭和53年3月19日より実施する。

鳥学会員に会員を限ることなく、将来の鳥学会員獲得のためにも懇談会だけへの入会も認めています。会員数は昭和54年1月1日現在、59名で、このうち鳥学会員が39名です。

昨年1年間には下記のような活動を行ってきました。

- 1) 第1回懇談会(発足会) 1月22日(日)伊丹市労働福祉会館、34名参加。会の性格について話しあい、世話人・事務局をきめる。
- 2) 第2回懇談会及び総会 3月19日(日)伊丹市労働福祉会館、21名参加。規約の決定。奈良盆地におけるシラサギ類の分布状況(山岸哲・阪市大・理・生物)。コサギの孵化順による生残のちがいとそれをもたらす行動について(井上良和・阪市大・理・生物)。
- 3) 第3回懇談会 9月24日(日)大阪市自然史博物館、27名参加。シマセンニュウの北海

道における分布について(中田千佳夫・嵐山自然史研)。タマンギの生態(米田重玄・阪市大・理・生物)。標本供覧(伏原春男・京都)。

- 4) 第4回懇談会 12月10(日)京都嵐山自然史研究所、20名参加。鳥声録音のしかた(伊東輝夫・大阪NHK)。セッカの一夫多妻制(上田恵介・阪市大・理・生物)。中国東北地区の鳥(伏原春男・京都)。

すでに述べたように、会員の大多数は鳥学会員であるとはいうものの、オープンシステムをとっておりますので、直ちに鳥学会の支部云々というわけにもまいりませんが、この点については今後皆さんで活動を続けるなかで検討していきたいと思っております。新しく鳥学会に入会された方で、この懇談会に参加されたい方は事務局まで御連絡下さい(文責・山岸)。

「南千島の鳥類」刊行について かねて予告していましたが「南千島の鳥類」(日本鳥学双書第17編)は、本年5月上旬頃刊行の予定となりました。現在、初校を終え、再校にかかっています。この本は、ソ連の鳥学者V.A. ネチャエフの同題の著書(ロシア語、1969年)の訳で、訳者は北方の鳥類に詳しい帯広畜産大助教授の藤巻裕蔵氏です。本来なら、我々自身で南千島の調査を行なわなければならないのですが、現状ではソ連の学者の論文や著書で満足する他仕方がありません。とくに北海道の鳥類に関心のある方に、是非おすすめします。

定価は1部1,900円(送料込み)です。同封の振替用紙でお申し込み下さい。完成次第、直ちに郵送でお手許にお届けします。

黒田長久著「富士山地域の鳥類」 黒田長久博士から「富士山地域の鳥類」の一部を寄贈していただきましたので、希望者に頒布します。これは1971年に富士急行株式会社が刊行した「富士山」(富士山総合学術調査報告書・黒田長久博士編集)と題する大著の鳥類に関する部分の別刷で、原著は非売品で入手できません。鳥類の部分は、黒田博士自身が担当され、本論(A4版93頁)のほか6冊(計50頁、3付表)で、富士山の鳥類の研究には欠くことのできない貴重な文献です。売上金は、「黒田基金」に繰り入れます。

定価は1セット1,700円(送料200円込み)。同封の振替用紙でお申し込み下さい。全部で40セットしかありませんのでお早目に。

会員名簿 最近入会された方、本学会の会員名簿をお持ちでしょうか。77年11月発行の「会員名簿」と78年11月発行の「会員名簿追補1」があります。会員の方にはそれぞれ1部ずつお送りしてあるはずですが、手ちがいにより未だおうけとりになっていない方もいらっしゃるかも知れません。事務所までハガキでお申し出になれば、無料でお送りします。

会費：年額3,000円 (入会金：2,000円)  
入会のお申し込みは事務所まで。どなたでも入会できます。